

「夏休み」を利用してトルコに行くことにした。この計画は2年前に、ツアーの「説明会」にまで参加して申し込みまで済ませていた。しかし行く直前の他のツアーで、飛行機の激しい揺れを体験してからキャンセルに至ったので、今回は念願の「カッパドキア(気球体験)」であった。

8月4日(月)

「福岡空港」に、16時15分に集合。カウンターにてツアー受付を済ませ、18時15分の上海行きのフライトを待つ。前回、イタリアに行った際に親しくなった佐賀のK夫妻にも再会出来た。

ここから長時間の移動が始まる。

2時間(福岡～上海) 5時間(上海での乗り換え時間) 12時間(上海～イスタンブール)

5時間(イスタンブール～アンカラ:バス移動)

機内宿泊も含めて、現地でのホテル(アンカラ)到着までは、合計24時間である。

8月5日(火)

首都アンカラに午後に到着して、トルコ初の「世界遺産」一連の古い木造多柱式の「アルスランハネジャーミイ(モスク)」と、初代大統領の眠る「アタトゥルク廟」を訪れる。



アルスランハネジャーミイ



アタトゥルク廟

8月6日(水)

一路、「カッパドキア」に向かう。4時間のバス移動である。途中、トルコで2番目の大きさ、世界では「ウユニ湖(ボリビア)」に続く2番目の大きさの塩湖の「トゥズ湖」に立ち寄る。トルコ国内の8割の塩は、ここで採取されている。水の無い塩の湖面を歩くが、向こう岸まで果てしない。

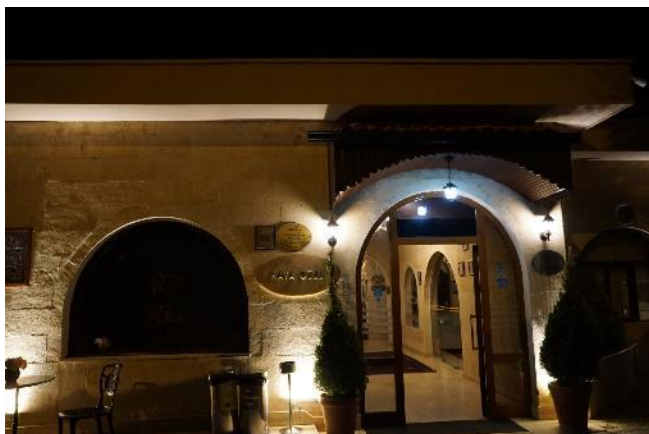
目的地のカッパドキアに到着。すぐに風景を撮影したいが、まずは「洞窟レストラン」で鱈の塩焼きを頂く。美味しいが、すごく大きかった。その後は同じく「世界遺産」の「ギョレメ野外博物館」に向かう。古い洞窟の中で現存する壁画や、当時の生活を思わせる内部を散策出来る。しかし、風水による浸食で残念ながら少しずつ小さくなっているらしい。レストランやホテルは、新たに壁面に掘られた洞窟なので地上は現代の作りである。エアコンや、バスやトイレなども完備しており、思ったよりは清潔で過ごし易い。外庭には、プールもあった。



トゥズ湖（塩湖）



ギョレメ野外博物館



「ウチヒサール カヤ（洞窟ホテル）」



～ 部屋の様子～

8月7日（木）

午前 3 時に起床。4 時半に「気球」の乗船場所までのバンが迎えに来る。ツアーの一行は 23 名だったが、このオプションを申し込まなかったのは「高所恐怖症」の一組の夫婦だけだった。「気球」は 30 人乗りで高度 1000m にまで達するが、ふわりと浮かんでいくので実際には「恐怖感」は無かった。操縦士が知らせてくれてから高度が分かる程度であった。100～200 個の「気球」が上がるので、景色を背景に素晴らしい光景である。これらの画像を収めるために「新しいレンズ（約 7 万円）」を新調した甲斐があった。



～気球が光るのはボイラを焚いた一瞬だけ～



～約 1 時間のフライト～



～次々と上昇する数多くの気球～



～思ったよりも、気球はすごく大きい～

「気球」体験後は、昼食の「窯焼きケバブ」を済ませてから奇岩の並ぶ名所へ。



スリー・シスターズ(三姉妹の岩)



ラクダ岩



ウチヒサル城



こちらは本物のラクダ(笑)

8月8日(木)

連泊した洞窟ホテルを後に、朝5時半に「カイセリ空港」へ。最後の目的地の「イスタンブール」へと飛行機にて1時間40分の移動。到着後は「歴史地区」観光へ。まず、世界最大最古の市場と言われる「グランドバザール」へ。各種の色とりどりの商品が並ぶが、やはり「ブランド品」などは模造品が多い。少ない予算で買い物ができるが、荷物がかさむのでウィンドウショッピングだけを楽しむ。

その後は、ピンク色の大聖堂「アヤソフィア」を経て、オスマン建築の最高傑作と言われる「ブルーモスク」へ。外観は「スターウォーズ」の建築物のモデルになったと言われており迫力がある。内観も素晴らしい。特に天井の模様には息をのんだ。



グランドバザールの様子①



グランドバザールの様子②



アヤソフィア



木立に囲まれた「ブルーモスク」



「ブルーモスク」のステンドグラス



～天井の様子～

本日はトルコ滞在の最終日である。観光後は、「ボスポラス海峡」を約1時間のクルージングの後に夕食を経て、ホテルに向かう。2008年8月に世界最深度となる海中60mでの「沈埋函接続」を成功させ、同年9月には「海底トンネル」の沈設作業を無事完了。これは日本の企業が行った「海峡横断鉄道トンネル」である。潮流が速くて、分割した「函（はこ）トンネル」が直下に沈まないのが集積した「データ解析」にて、潮の

流れを計算して沈埋させたと「プロジェクト X」で言っていた。「トルコ国民 150 年の夢」とも呼ばれていたらしい。この海峡は世界中から人気で、不動産は「一戸建て」で、1~3 億円と言われている。



ボスポラス海峡



～船上からの風景～



～船上からの風景～

海峡を見渡せるレストランで豪華な夕食を頂くが、グラスワインが一杯 600 リラ (2,400 円) と高い。「カッパドキア」では名産のワインがボトル一本で 900 リラ (3,600 円) だったのに(涙)。

8月9日(土)

朝 8 時半にイスタンブール空港へ向かって帰路に着く。行きと同じ行程なので仕方ない。

しかし翌日、福岡は「線状降水帯」で覆われていて、無事にお昼頃に「福岡空港」に到着出来たものの「博多駅」では JR が動いていなくて、すぐに「アパホテル」を予約。翌日の始発で帰宅予定だったが、JR も西鉄バスも「運航取り止め」だったので、すぐにフロントへ走って同部屋をキープした。「博多駅」ではスーツケースを持ったホテル難民や、払い戻しを求める客が「みどりの窓口」の長蛇の列を作っていた。結局、自宅に着いたのは 12 日(火)だった。ホテルに「大浴場」と「コインランドリー」があったので本当に助かった。

(世界三大料理)

中華料理、フランス料理、トルコ料理と言われている。今回、そのトルコ料理を楽しむ事が出来たのだが、ツアー参加者の中にはおなかの調子をこわす方もおられた。私も例外ではなかったのだが、オリーブオイルが多く使われているとか、ミネラルウォーターのカルシウム、マグネシウムが多いなど原因は分からなかった。